

聖書の語る神②—神と悪(苦しみ)との関係から—

原田元道

苦しみ(悪)の原因

- ・ 苦しみは罪(悪)に対する裁きとしてもたらされる
 - 神様の命令に背いたために裁きを受けるエバ

「神は女に向かって言われた。『お前のはらみの苦しみを大きなものにする。お前は、苦しんで子を産む。お前は男を求め／彼はお前を支配する。』」(創世記 3:16)

→出産の苦しみと夫婦関係の苦しみが増した
 - 神様の命令に背いたために裁きを受けるアダム

「神はアダムに向かって言われた。『お前は女の声に従い／取って食べるなど命じた木から食べた。お前のゆえに、土は呪われるものとなった。お前は、生涯食べ物を得ようと苦しむ。お前に対して／土は茨とあざみを生えいでさせる／野の草を食べようとするお前に。お前は顔に汗を流してパンを得る／土に返るときまで。お前がそこから取られた土に。塵にすぎないお前は塵に返る。」(創世記 3:17-19)

→労働の苦しみが増し、死の苦しみが生じた
- ・ 苦しみは人の犯す悪(罪)によってもたらされる
 - 敵対する人々が謀る悪

「敵はわたしを苦しめようとして言います。「早く死んでその名も消えうせるがよい。」見舞いに来れば、むなしいことを言いますが／心に悪意を満たし、外に出ればそれを口にします。わたしを憎む者は皆、集まってささやき／わたしに災いを謀っています。」(詩編 41:6-8)

→悪意や憎しみから他の人を苦しめようとする

⇒苦しみと人の罪(悪)の間には密接な関係が存在

神と罪(悪)の関係

- ・ 神様の罪(悪)との関わり方は一通りではない
 - 人に罪を犯させることはない神様

「誘惑に遭うとき、だれも、『神に誘惑されている』と言ってはなりません。神は、悪の誘惑を受けるような方ではなく、また、御自分でも人を誘惑したりなさらないからです。むしろ、人はそれぞれ、自分自身の欲望に引かれ、唆されて、誘惑に陥るのです。」(ヤコブ 1:13-14)

→人間自身の意思決定に基づいて罪を犯す
 - 人が罪を犯すのを許される神様

「神は過ぎ去った時代には、すべての国の人が思い思いの道を行くままにしておられました。」(使徒 14:16)

→神様が人間の意思をコントロールすることはない
 - 人が罪を犯すのを防ぐ・制限することができる神様

「神は夢の中でアビメレクに言われた。『わたしも、あなたが全くやましい考えでなしにこの事をしたことは知っている。だからわたしも、あなたがわたしに対して罪を犯すことのないように、彼女に触れさせなかったのだ。』」(創世記 20:6)

「主はサタンに言われた。『それでは、彼のものを一切、お前のいいようにしてみるがよい。ただし彼には、手を出すな。』サタンは主のもとから出て行った。」(ヨブ 1:12)

→神様は主権をもって統べ治めている
 - 人の罪を用いて善をもたらすことができる神様

「あなたがたはわたしに悪をたくらみましたが、神はそれを善に変え、多くの民の命を救うために、今日のようにしてくださったのです。」(創世記 50:20)

「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。」(ローマ 8:28)

→全知全能で愛なる神様は悪(罪)さえ用いて御自分の善なる計画を成し遂げていく

⇒神様と罪(悪)の関係は複雑怪奇

苦しみ(悪)の解決

- ・ 神様は悪や罪を(いずれ)必ず裁く(例：ノアの洪水、ソドムとゴモラ)
 - この世の悪と罪に対する裁きをその身に引き受けた神の独り子
 - 「そして、十字架にかかって、自らその身にわたしたちの罪を担ってくださいました。わたしたちが、罪に対して死んで、義によって生きようになるためです。そのお受けになった傷によって、あなたがたはいやされました。」(Iペトロ 2:24)
 - 神様の正義(裁き)が十字架に表れている
- ・ 神様は悪と罪に満ちたこの世から人々を救い出す(例：ノアの家族、ロトの家族)
 - 救いは恵みであり神の賜物
 - 「わたしたちも皆、こういう者たちの中において、以前は肉の欲望の赴くままに生活し、肉や心の欲するままに行動していたのであり、ほかの人々と同じように、生まれながら神の怒りを受けるべき者でした。…事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。それは、だれも誇ることがないためなのです。」(エフェソ 2:3, 8-9)
 - 神様の愛(救い)が十字架に表れている
 - ⇒イエス様の十字架は神様の正義と愛が会う場所
- ・ 最終的な解決はイエス様の再臨を待たなければならない
 - 全てを正しく裁く神様・イエス様
 - 「彼らは、神の僕モーセの歌と小羊の歌とをうたった。『全能者である神、主よ、／あなたの業は偉大で、／驚くべきもの。諸国の民の王よ、／あなたの道は正しく、また、真実なもの。主よ、だれがあなたの名を畏れず、／たたえずにおられましようか。聖なる方は、あなただけ。すべての国民が、来て、／あなたの前にひれ伏すでしょう。あなたの正しい裁きが、／明らかになったからです。』(黙示録 15:3-4)
 - 復活して神様と共に永遠に生きるキリスト者
 - 「驚いてはならない。時が来ると、墓の中にいる者は皆、人の子の声を聞き、善を行った者は復活して命を受けるために、悪を行った者は復活して裁きを受けるために出て来るのだ。」(ヨハネ 5:28-29)

⇒神様は罪(悪)を裁くと同時に罪(悪)から救うお方

まとめ

- ・ 苦しみと人の罪(悪)の間には密接な関係が存在
 - 自分の罪の裁きとしての苦しみ
 - 他人の罪の結果としての苦しみ
- ・ 神様と罪(悪)の関係は複雑怪奇
 - 自身の意思決定に基づく悪(罪)に対して責任を負う人間
 - 悪(罪)さえ用いて善をなす全知全能で愛なる神様
- ・ 罪(悪)を裁くと同時に罪(悪)から救う神様
 - 神様の正義(裁き)と愛(救い)が会う十字架
 - 最終的な解決はイエス様再臨のとき